



2026年3月期 第2四半期決算報告

2025年11月6日

株式会社 **ニコン**

- 社長の徳成です。本日はお忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございます。

1. 経営状況報告

2. 2026年3月期 第2四半期決算報告

3. 2026年3月期 通期見通し

Nikon |

- 私からは、経営状況についてご報告します。

今期の進捗状況



クオリティオブライフ	映像	・RED社の技術を融合した初のデジタルシネマカメラ「ZR」を発売 ・ミラーレスカメラ用交換レンズのラインアップを累計50種類まで拡充
	ヘルスケア	・顕微鏡事業100周年記念マーケティング施策をグローバルに展開、創業支援にも注力 ・ニコン・セル・イノベーションの細胞受託生産事業が経済産業省の補助金*1に採択
インダストリー	精機	・半導体後工程・アドバンストパッケージング向けデジタル露光装置「DSP-100」の受注開始 ・拡大が見込まれる半導体後工程におけるウェハ接合技術でSCREEN社との協業体制を強化*2 ・前工程では次世代ArF液浸露光装置開発が順調に進捗
	コンポーネント	・旧産業機器事業の構造改革でNikon Metrology NV社の解散を決議（税効果） ・将来的な需要の多様化に備えて新型EUV関連コンポーネントを開発中
	デジタルマニュファクチャリング	・「JAXA宇宙戦略基金」事業として大型精密部品への金属3D積層技術の要素開発に着手 ・SLM社は防衛・宇宙市場を中心に更なる成長へ向け新型機種開発中。収益性改善施策も実施
経営基盤		・横浜製作所の売却を含む国内外拠点の集約・再編及びバランスシート効率化を推進
主要株主の異動*3		・エシロールルックスオティカ社 10.75%保有(10月1日現在)。最大20%までのクリアランス取得済

次期中計(2026年4月～2031年3月)では「短期業績の回復」と「長期成長のための投資」の両立を目指す

(*1) 再生・細胞医療・遺伝子治療製造設備投資支援事業費補助金 (*2) 10/31付プレスリリース参照 (*3) 10/6付適時開示「主要株主である筆頭株主の異動に関するお知らせ」参照

- スライド3、上段には5つの事業セグメントにおける戦略面での進捗状況を、下段には経営基盤等の状況を記載しています。
- 映像事業は、収益の柱として堅調に推移しています。
- 10月には、米国子会社RED社の技術を融合した初のデジタルシネマカメラ「ZR」を発売しました。
- また、動画撮影用に最適化したパワーズーム搭載レンズなどを加え、Zマウントレンズのラインアップを累計50種類まで拡充しました。今後も動画クリエイターを含む世代を超えた映像ファンの獲得に取り組んでいく方針です。
- ヘルスケア事業では、顕微鏡事業が今年100周年を迎え、民間企業の創業支援ビジネスに注力しています。
- また、細胞受託生産を担う子会社のニコン・セル・イノベーションは10億円規模の営業利益を上げるまでに成長し、今般、経済産業省の補助金事業に採択されました。CAR-T細胞やiPS細胞などの細胞医薬品が拡大するなか、海外への供給も視野に入れ、補助金も活用しながら、CDMOと呼ばれる受託生産を拡大していく方針です。

今期の進捗状況



クオリティオブライフ	映像	・RED社の技術を融合した初のデジタルシネマカメラ「ZR」を発売 ・ミラーレスカメラ用交換レンズのラインアップを累計50種類まで拡充
	ヘルスケア	・顕微鏡事業100周年記念マーケティング施策をグローバルに展開、創業支援にも注力 ・ニコン・セル・イノベーションの細胞受託生産事業が経済産業省の補助金*1に採択
インダストリー	精機	・半導体後工程・アドバンストパッケージング向けデジタル露光装置「DSP-100」の受注開始 ・拡大が見込まれる半導体後工程におけるウェハ接合技術でSCREEN社との協業体制を強化*2 ・前工程では次世代ArF液浸露光装置開発が順調に進捗
	コンポーネント	・旧産業機器事業の構造改革でNikon Metrology NV社の解散を決議（税効果） ・将来的な需要の多様化に備えて新型EUV関連コンポーネントを開発中
	デジタルマニュファクチャリング	・「JAXA宇宙戦略基金」事業として大型精密部品への金属3D積層技術の要素開発に着手 ・SLM社は防衛・宇宙市場を中心に更なる成長へ向け新型機種開発中。収益性改善施策も実施
経営基盤		・横浜製作所の売却を含む国内外拠点の集約・再編及びバランスシート効率化を推進
主要株主の異動*3		・エシロールルックスオティカ社 10.75%保有(10月1日現在)。最大20%までのクリアランス取得済

次期中計(2026年4月～2031年3月)では「短期業績の回復」と「長期成長のための投資」の両立を目指す

(*1) 再生・細胞医療・遺伝子治療製造設備投資支援事業費補助金 (*2) 10/31付プレスリリース参照 (*3) 10/6付適時開示「主要株主である筆頭株主の異動に関するお知らせ」参照

- 精機事業は、北米主要顧客の業績不振により厳しい状況ですが、将来に向けた取り組みが進展しています。
- 技術革新や市場の拡大が期待される半導体製造の後工程関連で、今期は2つの大きな進展がありました。
- 一つは、デジタル露光装置「DSP-100（ディーエスピー ヒャク）」の受注を開始し、多くのお客様から引き合いをいただいております。これは、AIやデータセンターで用いられる大型チップレットのアドバンストパッケージング向けに開発したもので、需要拡大が期待されています。
- また、後工程におけるウェハ接合いわゆるボンダーの研究開発事業を、株式会社SCREENホールディングス様に約30億円で譲渡しました。今後、当社はこの技術をキーモジュールの受託開発・製造を請け負う形で同社との協業を推し進めます。
- このようにニコンは、今後拡大が期待される半導体後工程での高精細化・高度化に貢献してまいりたいと考えています。
- さらに、前工程においては、その中心プロセスである露光において、主要半導体メーカーと共同で、新プラットフォームArF液浸露光装置の開発を進めています。2028年度のプロトタイプ納入に向け、開発は順調に進捗しています。
- コンポーネント事業では、旧産業機器事業の構造改革の一環として、ベルギーにあるNikon Metrology NVの解散を決議しました。これにより、今期の税引後利益には98億円程度のプラスの税効果が生じる見込みです。
- また、成長期待の大きいEUV関連コンポーネントは、現在需要が踊り場を迎えていますが、将来的な需要の多様化に向け、新型機種向けコンポーネントの開発に着手しています。

今期の進捗状況



クオリティオブライフ	映像	・RED社の技術を融合した初のデジタルシネマカメラ「ZR」を発売 ・ミラーレスカメラ用交換レンズのラインアップを累計50種類まで拡充
	ヘルスケア	・顕微鏡事業100周年記念マーケティング施策をグローバルに展開、創業支援にも注力 ・ニコン・セル・イノベーションの細胞受託生産事業が経済産業省の補助金*1に採択
インダストリー	精機	・半導体後工程・アドバンストパッケージング向けデジタル露光装置「DSP-100」の受注開始 ・拡大が見込まれる半導体後工程におけるウェハ接合技術でSCREEN社との協業体制を強化*2 ・前工程では次世代ArF液浸露光装置開発が順調に進捗
	コンポーネント	・旧産業機器事業の構造改革でNikon Metrology NV社の解散を決議（税効果） ・将来的な需要の多様化に備えて新型EUV関連コンポーネントを開発中
	デジタルマニュファクチャリング	・「JAXA宇宙戦略基金」事業として大型精密部品への金属3D積層技術の要素開発に着手 ・SLM社は防衛・宇宙市場を中心に更なる成長へ向け新型機種開発中。収益性改善施策も実施
経営基盤		・横浜製作所の売却を含む国内外拠点の集約・再編及びバランスシート効率化を推進
主要株主の異動*3		・エシロールルックスオティカ社 10.75%保有(10月1日現在)。最大20%までのクリアランス取得済

次期中計(2026年4月～2031年3月)では「短期業績の回復」と「長期成長のための投資」の両立を目指す

(*1) 再生・細胞医療・遺伝子治療製造設備投資支援事業費補助金 (*2) 10/31付プレスリリース参照 (*3) 10/6付適時開示「主要株主である筆頭株主の異動に関するお知らせ」参照

- デジタルマニュファクチャリング事業では、「JAXA宇宙戦略基金」事業が始動しました。今後、SLM社の大型金属3Dプリンターを活用したロケット部品の低コスト化やリードタイムの短縮を目指します。
- SLM社の上期業績は計画未達に終わったものの、防衛・宇宙領域での需要は底堅いものがあります。今後、競争力のある新型機種の開発を行うと同時に、黒字化を目指して収益性の改善にも取り組んで参ります。
- 続いて、経営基盤の状況についてご説明します。
- ニコンでは、現在、国内外の拠点集約・再編を進めています。
- 9月末に横浜製作所を閉鎖しましたが、その跡地は今期中に売却する計画です。引き続き、バランスシートの効率的運用を目指して参ります。
- 最後に。ニコンは、光利用技術と精密技術で社会に貢献することで、株主の皆様を含む全てのステークホルダーの期待にお応えし、持続的な企業価値向上を実現して参りたいと考えております。
- 足元の業績は厳しいものがありますが、ただいまご説明したとおり、未来に向けた施策は着実に進展してきています。現在策定中の次期中期経営計画においても、「短期業績の回復」と「長期成長のための投資」の両立を目指す方針です。
- 引き続き、株主・投資家の皆さまのご理解・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

1. 経営状況報告

2. 2026年3月期 第2四半期決算報告

3. 2026年3月期 通期見通し

Nikon |

- CFOの松本です。
- 私からは、上期決算ならびに通期の見通しについてご説明申し上げます。

2026年3月期 上期：ポイント

上期実績 (前年比)

- **売上収益** : **3,129億円** (前年比 ▲198億円)
- **営業利益** : **▲48億円** (前年比 ▲106億円)
- **当期利益*** : **53億円** (前年比 +24億円)
- 売上収益は、コンポーネント事業で販売増加があった一方、映像事業やヘルスケア事業での為替影響及び半導体装置事業やデジタルマニファクチャリング事業での販売減少により減収
- 営業利益は、半導体装置事業・インダストリアルソリューションズ事業の構造改革効果に加え、精機事業において半導体ウエハ接合技術の研究開発事業譲渡益の計上があった一方、関税影響や映像事業での為替影響と製品ミックス変化、デジタルマニファクチャリング事業の減収影響により減益
- 当期利益は、連結子会社の解散及び清算決議に伴う繰延税金資産の計上により増益

前回予想比 (8/7)

- **売上収益** : **▲1億円**
- **営業利益** : **+32億円**
- **当期利益*** : **+3億円**
- 売上収益は、FPD露光装置の据付繰延やデジタルマニファクチャリング事業の販売繰延による下振れを、映像事業やヘルスケア事業での上振れにより相殺し、概ね予想通り
- 営業利益は、デジタルマニファクチャリング事業の販売繰延による下振れの一方、精機事業の事業譲渡益前倒し計上やヘルスケア事業・コンポーネント事業における経費の抑制及び繰延により上振れ

注：本資料で使用している数値は、億円未満は切り捨て * 親会社の所有者に帰属する四半期利益

Nikon |

- まず、上期決算のポイントです。
- 売上収益は3,129億円、営業利益は48億円の赤字、そして当期利益は53億円の黒字となりました。
- まず、売上収益ですが、コンポーネント事業で販売増加となったものの、映像事業やヘルスケア事業での為替影響や、半導体装置事業やデジタルマニファクチャリング事業での販売減少により、前年比198億円の減収となりました。
- 営業利益は、半導体装置事業やインダストリアルソリューションズ事業での構造改革効果に加え、精機事業ではウエハ接合技術の事業譲渡益を計上したものの、関税影響や映像事業での為替影響と製品ミックス変化、デジタルマニファクチャリング事業での減収影響により、前年比106億円の減益となりました。
- 一方、当期利益は、連結子会社の解散及び清算を決議したことを踏まえ、繰延税金資産を計上したことから、前年比24億円の増益となりました。
- 8月公表の前回予想との比較では、売上収益はほぼ計画通りでしたが、営業利益は、デジタルマニファクチャリング事業の販売繰延があったものの、精機事業での事業譲渡益の前倒し計上や、ヘルスケア事業・コンポーネント事業における経費抑制などにより上振れました。

2026年3月期 上期：財務ハイライト

単位：億円	25年3月期	前回予想	26年3月期	前年比		前回予想比	
	上期実績	(8/7)	上期実績	増減額	増減率	増減額	増減率
売上収益	3,327	3,130	3,129	▲198	▲6.0%	▲1	▲0.0%
営業利益	58	▲80	▲48	▲106	-	+32	-
営業利益率	1.7%	▲2.6%	▲1.5%	▲3.2P	-	+1.1P	-
税引前利益	44	▲60	▲52	▲96	-	+8	-
税引前利益率	1.3%	▲1.9%	▲1.7%	▲3.0P	-	+0.2P	-
当期利益*	29	50	53	+24	+80.7%	+3	+7.1%
当期利益率	0.9%	1.6%	1.7%	+0.8P		+0.1P	
FCF	▲2	-	▲230	▲228	-	-	-
為替：USDドル	153円	145円	146円	売上収益への影響			
				▲68		+43	
ユーロ	166円	159円	168円	営業利益への影響			
				▲31		▲3	

上期における営業利益への関税影響は▲29億円

* 親会社の所有者に帰属する四半期利益

- スライド 6 は、ただいまご説明した上期の主要計数と、前年比、前回8月予想比を一覧でお示ししています。
- なお、米国関税影響は、営業利益でマイナス29億円となりました。

2026年3月期 Q2：財務ハイライト

単位：億円	25年3月期	26年3月期	前年比	
	Q2実績	Q2実績	増減額	増減率
売上収益	1,689	1,548	▲141	▲8.3%
営業利益	29	▲37	▲66	-
営業利益率	1.7%	▲2.3%	▲4.0P	-
税引前利益	▲2	▲59	▲57	-
税引前利益率	▲0.1%	▲3.9%	▲3.8P	-
当期利益*	2	▲41	▲43	-
当期利益率	0.1%	▲2.7%	▲2.8P	-
FCF	78	▲137	▲215	-
為替：USD円	150円	147円	売上収益への影響	
			+3	
ユーロ	164円	172円	営業利益への影響	
			▲7	

* 親会社の所有者に帰属する四半期利益

Nikon |

- スライド7は、7-9月の3か月の財務ハイライトです。説明は省略します。

2026年3月期 上期：セグメント別業績

単位：億円		25年3月期 上期実績	前回予想 (8/7)	26年3月期 上期実績	前年比		前回予想比	
					増減額	増減率	増減額	増減率
映像事業	売上収益	1,517	1,400	1,450	▲67	▲4.4%	+50	+3.6%
	営業利益	288	140	151	▲137	▲47.5%	+11	+8.2%
	営業利益率	19.0%	10.0%	10.4%	▲8.6P		+0.4P	
精機事業	売上収益	815	720	698	▲117	▲14.3%	▲22	▲2.9%
	営業利益	9	5	30	+21	+222.6%	+25	+508.9%
	営業利益率	1.2%	0.7%	4.4%	+3.2P		+3.7P	
ヘルスケア事業	売上収益	551	500	512	▲39	▲7.1%	+12	+2.4%
	営業利益	13	▲10	3	▲10	▲73.8%	+13	-
	営業利益率	2.4%	▲2.0%	0.7%	▲1.7P		+2.7P	
コンポーネント事業	売上収益	304	350	351	+47	+15.4%	+1	+0.4%
	営業利益	14	35	52	+38	+255.4%	+17	+50.9%
	営業利益率	4.9%	10.0%	15.0%	+10.1P		+5.0P	
デジタルマニファクチャリング 事業	売上収益	117	140	98	▲19	▲16.2%	▲42	▲29.8%
	営業利益	▲64	▲55	▲89	▲25	-	▲34	-
	営業利益率	▲54.9%	▲39.3%	▲91.2%	▲36.3P		▲51.9P	
その他（含、全社費用等）	売上収益	20	20	18	▲2	▲13.5%	▲2	▲9.6%
	営業利益	▲203	▲195	▲196	+7	-	▲1	-
	営業利益率							
連結	売上収益	3,327	3,130	3,129	▲198	▲6.0%	▲1	▲0.0%
	営業利益	58	▲80	▲48	▲106	-	+32	-
	営業利益率	1.7%	▲2.6%	▲1.5%	▲3.2P		+1.1P	

Nikon |

- スライド8は、上期のセグメント別実績です。
- 黄色い枠のなか、各セグメントの上段が売上収益、下段が営業利益です。
- 8月の前回予想比では、デジタルマニファクチャリングを除く全ての事業で営業利益が上振れました。

2026年3月期 上期：映像事業

単位：億円	25年3月期 上期実績	前回予想 (8/7)	26年3月期 上期実績	前年比	前回予想比
売上収益	1,517	1,400	1,450	▲67	+50
営業利益	288	140	151	▲137	+11
営業利益率	19.0%	10.0%	10.4%	▲8.6P	+0.4P
レンズ交換式 デジタルカメラ	41万台	-	48万台	+7万台	-
交換レンズ	65万本	-	67万本	+2万本	-

- **前年比**：ボリュームゾーンの新製品「Z5II」や好調な「Z50II」を中心に販売台数は増加したものの、製品ミックスの変化による平均販売単価の下落に加え、為替や関税影響もあり減収減益
- **前回予想比**：販売増に加え、経費抑制もあり売上収益・営業利益ともに上振れ

Nikon |

- それでは、事業セグメントごとにご説明します。
- まず、映像事業です。
- 売上収益は前年比67億円減収の1,450億円、営業利益は137億円減益の151億円となりました。
- ボリュームゾーンの「Z50II」や新製品「Z5II」などの好調な販売により、レンズ交換式デジタルカメラの販売台数は前年比7万台増の48万台、交換レンズは前年比2万本増の67万本となりました。
- 販売台数は増えたものの、製品ミックスの変化や為替影響及び 関税影響もあり、減収減益となりました。
- 前回予想に対しては、販売増に加え、経費抑制もあり、売上収益、営業利益ともに上振れました。

2026年3月期 上期：精機事業

単位：億円	25年3月期 上期実績	前回予想 (8/7)	26年3月期 上期実績	前年比	前回予想比
売上収益	815	720	698	▲117	▲22
営業利益	9	5	30	+21	+25
営業利益率	1.2%	0.7%	4.4%	+3.2P	+3.7P
FPD露光装置	16台	-	15台	▲1台	-
半導体露光装置 新品／中古	4/6台	-	8/1台	+4/▲5台	-

- **前年比**：売上収益は、FPD装置事業で製品ミックス改善も、半導体装置事業のArF露光装置の販売減少により減収。一方、営業利益は、追加のサービス拠点最適化費用を計上したものの、ウェハ接合技術の研究開発事業の譲渡益や前年に実施した半導体装置事業の構造改革効果により増益
- **前回予想比**：売上収益は、FPD露光装置の据付繰延等により下振れ。一方、営業利益は、上記事業譲渡益の下期計画からの前倒し計上により上振れ

Nikon |

- スライド10は、精機事業です。
- 売上収益は、FPD装置事業で製品ミックスが改善したものの、半導体装置事業でArF露光装置の販売が減少したことにより、前年比117億円減収の698億円となりました。
- 一方、営業利益は、サービス拠点最適化による一時費用を計上したものの、事業譲渡益や前年実施した構造改革効果により、前年比21億円の増益となりました。
- 前回予想に対しては、FPD露光装置の据付完了が下期へ繰延となったこともあり、売上収益は下振れ、一方、営業利益は、事業譲渡益を下期から前倒し計上したこともあり上振れとなりました。

2026年3月期 上期：ヘルスケア事業

単位：億円	25年3月期 上期実績	前回予想 (8/7)	26年3月期 上期実績	前年比	前回予想比
売上収益	551	500	512	▲39	+12
営業利益	13	▲10	3	▲10	+13
営業利益率	2.4%	▲2.0%	0.7%	▲1.7P	+2.7P

- **前年比**：売上収益は、為替影響に加え、ライフサイエンスにおいて米国でのアカデミア向け助成金の打ち切りや保留による販売停滞の影響を受け、減収。営業利益は、経費抑制も販売減や関税影響により減益
- **前回予想比**：売上収益は、為替効果に加え、アイケアの欧米を中心とした販売増により上振れ。営業利益は、販売増に伴う粗利増に加え、事業部全体の経費抑制により上振れ

Nikon |

- スライド11は、ヘルスケア事業です。
- 売上収益は512億円、営業利益は3億円となりました。
- 売上収益は、為替影響に加え、ライフサイエンスでは、米国でのアカデミア向け助成金打ち切りや保留による販売停滞の影響を受け、前年比39億円の減収となりました。
- 営業利益は、経費抑制に努めたものの、販売減や米国関税の影響により、前年比10億円減益となりました。
- 前回予想に対しては、アイケアで欧米を中心に販売が増加したことや、事業部全体での経費抑制により、売上収益、営業利益ともに上振れました。

2026年3月期 上期：コンポーネント事業

単位：億円	25年3月期 上期実績	前回予想 (8/7)	26年3月期 上期実績	前年比	前回予想比
売上収益	304	350	351	+47	+1
営業利益	14	35	52	+38	+17
営業利益率	4.9%	10.0%	15.0%	+10.1P	+5.0P

- **前年比**：売上収益は、電子部品・半導体向け画像測定システムやFPDフォトマスク基板の販売増加により増収。営業利益は、増収に加え、前年に実施したインダストリアルソリューションズ事業（旧産業機器事業）での構造改革効果により増益
- **前回予想比**：売上収益は、概ね予想通り。営業利益は、下期への経費繰延により上振れ

Nikon |

- スライド12は、コンポーネント事業です。
- 売上収益は、電子部品・半導体向け画像測定システムやFPDフォトマスク基板の販売増加により、前年比47億円増収の351億円となりました。
- 営業利益は、増収効果に加え、インダストリアルソリューションズ事業での構造改革効果もあり、前年比38億円増益の52億円となりました。
- 前回予想に対しては、下期への経費繰延もあり、営業利益が上振れとなりました。

2026年3月期 上期：デジタルマニュファクチャリング事業

単位：億円	25年3月期 上期実績	前回予想 (8/7)	26年3月期 上期実績	前年比	前回予想比
売上収益	117	140	98	▲19	▲42
営業利益	▲64	▲55	▲89	▲25	▲34
営業利益率	▲54.9%	▲39.3%	▲91.2%	▲36.3P	▲51.9P

- **前年比**：売上収益は、SLM社の大型金属3Dプリンターの販売台数減により減収。営業利益は、販売減及び製品ミックスの変化による粗利減に加え、経費増加により減益
- **前回予想比**：大型金属3Dプリンターの販売繰延により売上収益・営業利益ともに下振れ

Nikon |

- スライド13は、デジタルマニュファクチャリング事業です。
- 98億円の売上収益、89億円の営業赤字となりました。
- 売上収益は、SLM社の大型金属3Dプリンターの販売台数減少により、前年比19億円減収となりました。
- 営業利益は、販売減や製品ミックスの変化に加え、経費増加もあり、前年から25億円の赤字幅拡大となりました。
- 前回予想に対しては、大型金属3Dプリンターの販売繰延により、売上収益・営業利益ともに下振れとなりました。

1. 経営状況報告

2. 2026年3月期 第2四半期決算報告

3. 2026年3月期 通期見通し

Nikon |

- 続いて、通期業績見通しをご説明します。

2026年3月期 通期見通し：ポイント

売上収益

- **全社見通し 6,800億円**（前回予想から200億円下方修正）
 - 上期実績を踏まえ映像事業やヘルスケア事業で上方修正する一方、精機事業やデジタルマニファクチャリング事業の販売計画を引き下げたため、全社では下方修正

営業利益

- **全社見通し 140億円**（前回予想から70億円下方修正）
 - 精機事業：装置販売の来期への繰延等により、70億円下方修正
 - ヘルスケア事業：上期実績を踏まえ、10億円上方修正
 - デジタルマニファクチャリング事業：上期実績を踏まえ、販売計画を見直した結果、20億円下方修正
 - 通期の関税影響は75億円を見込む（前回予想から変更なし）

当期利益*

- **全社見通し 200億円**（前回予想から70億円下方修正）

株主還元

- **中間配当金25円、年間配当金予想50円**（前回予想据え置き）

為替前提

- **USドル 146円、ユーロ 169円**（下期は、USドル 145円、ユーロ 170円）

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

Nikon |

- 売上収益ですが、上期実績を踏まえ映像事業やヘルスケア事業で上方修正する一方、販売計画を引き下げた精機事業やデジタルマニファクチャリング事業を下方修正し、全社見通しは200億円下方修正の6,800億円とします。
- 営業利益は、ヘルスケア事業を10億円上方修正する一方、精機事業を70億円、デジタルマニファクチャリング事業を20億円それぞれ下方修正し、全社見通しを70億円引き下げ、140億円とします。
- なお、営業利益への関税影響は、前回8月予想と同じマイナス75億円を見込みます。
- また、当期利益も70億円引き下げ、200億円としますが、中間配当25円、年間配当50円は8月予想と変わりません。
- なお、下期の為替レートは、ドルは145円、ユーロは170円とします。ドルは8月予想から変更ありませんが、ユーロは15円円安に見直します。

2026年3月期 通期見通し：財務ハイライト

単位：億円	25年3月期 実績	前回予想 (8/7)	今回予想 (11/6)	前年比	前回予想比
売上収益	7,152	7,000	6,800	▲352	▲200
営業利益	24	210	140	+116	▲70
営業利益率	0.3%	3.0%	2.1%	+1.8P	▲0.9P
税引前利益	45	250	160	+115	▲90
税引前利益率	0.6%	3.6%	2.4%	+1.8P	▲1.2P
当期利益*	61	270	200	+139	▲70
当期利益率	0.9%	3.9%	2.9%	+2.0P	▲1.0P
ROE	0.9%	4.2%	3.1%	+2.2P	▲1.1P
EPS	17.86円	82.08円	60.78円	+42.92円	▲21.30円
年間配当	50円	50円	50円	-	-
為替：USD/円	153円	145円	146円	売上収益への予想影響	
				▲123	+112
ユーロ	164円	157円	169円	営業利益への予想影響	
				▲40	+20

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

注：予想EPSの前提となる発行済株式数：前回予想約328.9百万株、今回予想約329.0百万株

Nikon |

- スライド16をご覧ください。
- 通期の業績予想の主要計数を、前年比、前回予想比を含めて、一覧表でお示ししています。
- 概要はすでにご説明した通りです。

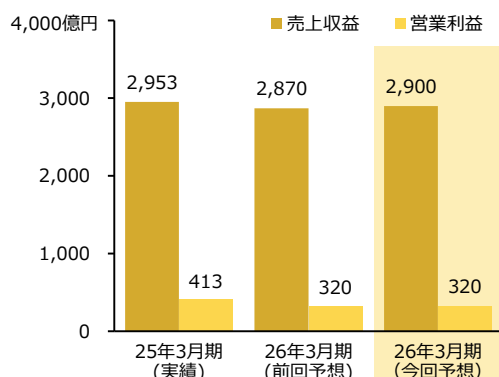
2026年3月期 通期見通し：セグメント別見通し

単位：億円		25年3月期実績	前回予想（8/7）	今回予想（11/6）	前年比	前回予想比
映像事業	売上収益	2,953	2,870	2,900	▲53	+30
	営業利益	413	320	320	▲93	-
	営業利益率	14.0%	11.1%	11.0%	▲3.0P	▲0.1P
精機事業	売上収益	2,019	1,850	1,630	▲389	▲220
	営業利益	15	120	50	+35	▲70
	営業利益率	0.8%	6.5%	3.1%	+2.3P	▲3.4P
ヘルスケア事業	売上収益	1,164	1,120	1,140	▲24	+20
	営業利益	67	40	50	▲17	+10
	営業利益率	5.8%	3.6%	4.4%	▲1.4P	+0.8P
コンポーネント事業	売上収益	741	790	790	+49	-
	営業利益	71	100	100	+29	-
	営業利益率	9.7%	12.7%	12.7%	+3.0P	-
デジタル マニファクチャリング事業	売上収益	233	330	300	+67	▲30
	営業利益	▲152	▲90	▲110	+42	▲20
	営業利益率	▲65.2%	▲27.3%	▲36.7%	+28.5P	▲9.4P
その他 （含、全社費用等）	売上収益	40	40	40	±0	-
	営業利益	▲391	▲280	▲270	+121	+10
連結	売上収益	7,152	7,000	6,800	▲352	▲200
	営業利益	24	210	140	+116	▲70
	営業利益率	0.3%	3.0%	2.1%	+1.8P	▲0.9P

Nikon |

- スライド17では、セグメント別の通期予想の一覧を、前年比、前回予想比とともにお示ししています。詳細は、セグメントごとにご説明します。

2026年3月期 通期見通し：映像事業



レンズ交換式デジタルカメラ (万台)			
市場規模	672	670	670
ニコン	85	95	95
交換レンズ (万本)			
市場規模	1,042	1,000	1,000
ニコン	131	140	140

● 前回予想比：売上収益 +30億円、営業利益 ±0 億円

● 前年比：売上収益 ▲53億円、営業利益 ▲93億円

【前回予想比】

- レンズ交換式デジタルカメラ市場は中長期的には堅調に推移すると見込むも、足元では製品ミックスの下方シフトに加え、関税による値上げの影響や一部成長市場での一服感が見られる
- 販売台数は前回予想を据え置くが、上期実績を踏まえ売上収益は上方修正
- 営業利益は、下期の製品ミックスを見直すことで、通期では据え置き

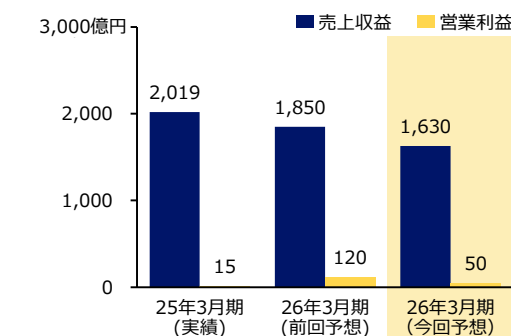
【前年比】

- RED社の技術を融合した初のデジタルシネマカメラ「ZR」やボリュウムゾーンの「Z5II」・「Z50II」などを中心に販売数量の増加を見込むものの、為替や関税影響等により減収減益

Nikon |

- まず、映像事業です。
- レンズ交換式デジタルカメラ市場は中長期的には堅調に推移すると見込んでいますが、足元では製品ミックスの下方シフトに加え、関税による値上げの影響や一部成長市場での一服感が見られます。
- 販売台数は8月予想を据え置きますが、上期実績を踏まえ、売上収益は30億円上方修正し、2,900億円とします。
- 営業利益は、上期実績では上振れとなりましたが、下期の製品ミックスの悪化を見込み、通期では320億円の8月予想を据え置きます。
- 前年比では、RED社とニコンの技術を融合した初のデジタルシネマカメラ「ZR」や、ボリュウムゾーンの「Z5II」・「Z50II」などを中心に販売数量の増加を見込むものの、為替や関税影響などにより、減収減益となります。

2026年3月期 通期見通し：精機事業



FPD露光装置販売台数（台）

市場規模 (CY24/25)	58	70	70
ニコン	38	35	33
半導体露光装置販売台数（新品／中古、台）			
市場規模 (CY24/25)	625	570	570
ニコン	18/10	27/7	23/6

● 前回予想比：売上収益 ▲220億円、営業利益 ▲70億円

● 前年比：売上収益 ▲389億円、営業利益 +35億円

【前回予想比】

- FPD露光装置及び半導体露光装置の来期への販売繰延等により
売上収益・営業利益とも下方修正

【前年比】

- 売上収益は、FPD露光装置及びArF露光装置の販売台数減少や
サービス収入の減少により減収

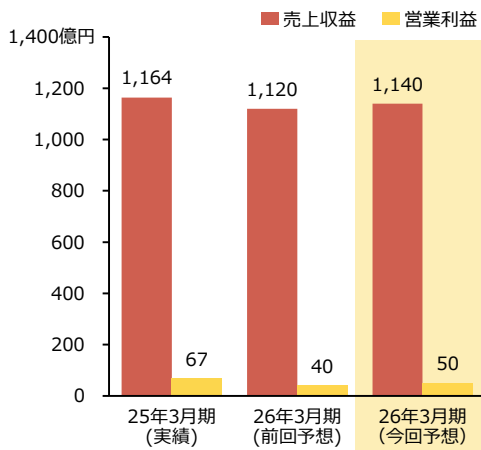
- 営業利益は、FPD装置事業の製品ミックス変化、半導体装置事業の
前年一時費用の剥落や構造改革効果に加え、ウェハ接合技術の研究
開発事業譲渡益により増益

- 半導体装置事業では、今後の顧客の動向を見極めるとともに、生産・
サポート体制の最適化を引き続き進め、損益分岐点を引き下げる

Nikon |

- スライド19は、精機事業の見通しです。
- 資料左下をご覧ください。一部顧客の投資先送りなどにより装置の納入が繰延となり、半導体露光装置の販売台数は新品・中古装置合わせて8月予想から5台減の29台となる見込みです。また、FPD露光装置の販売台数は2台の据付完了が来期にずれ込むため、33台となる見込みです。
- これらの販売台数変更などを反映し、売上収益は220億円、営業利益は70億円それぞれ引き下げます。
- 前年比では、ArF露光装置などの販売台数減少やサービス収入の減少により、減収の見込みです。
- 一方、営業利益は、FPD装置事業の製品ミックス変化に加え、前年の一時費用剥落や構造改革効果、事業譲渡益により、事業全体では増益の見通しです。
- なお、半導体装置事業では、前期に続き、この第2四半期にも、一部地域でサービス拠点最適化を実施しました。今後も、顧客の投資動向を見極めつつ、生産・サポート体制の最適化を進め、来期以降の安定した収益確保に努めます。

2026年3月期 通期見通し：ヘルスケア事業



● 前回予想比：売上収益 +20億円、営業利益 +10億円

● 前年比：売上収益 ▲24億円、営業利益 ▲17億円

【前回予想比】

- 売上収益は、為替効果を反映し20億円上方修正
- 営業利益は、経費抑制などの上期実績を踏まえ10億円上方修正

【前年比】

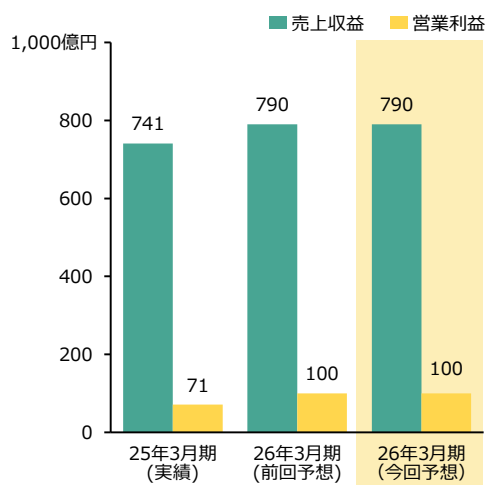
- ライフサイエンスは、収益性改善を目指し、高付加価値製品の拡販に加え、販管費の適正化を計画
- アイケアは、中国での販売低迷が懸念されるものの、欧米を中心に新製品の拡販を進め、通期では前年並みの売上収益を目指す
- 細胞受託生産は、安定した売上収益及び営業利益の確保を見込む。既存プロジェクトは順調に進んでおり、生産能力拡大に向けた投資を行う
- 事業全体の売上は、為替影響に加えライフサイエンスの米国における販売減もあり減収。営業利益は、経費抑制を進めるも関税影響により減益

注：25年3月期実績は20億円、26年3月期予想は20億円の一時費用を含む。一時費用の主な詳細は決算短信17ページ（偶発負債）参照

Nikon |

- 続いてスライド20をご覧ください。ヘルスケア事業についてご説明します。
- 売上収益は、主に為替効果を反映し、8月予想から20億円引き上げ、1,140億円とします。
- 営業利益は、経費抑制などの上期実績を踏まえ、10億円引き上げ、50億円とします。
- ライフサイエンスは、収益性改善を目指し、高付加価値製品の拡販に加え、販管費の適正化を進めます。
- アイケアは、中国での販売低迷が懸念されるものの、欧米を中心に新製品の拡販を進め、通期では前年並みの売上収益を目指します。
- 細胞受託生産は、安定した売上収益と営業利益を見込みます。既存プロジェクトは順調に進んでおり、生産能力拡大に向けた投資を行います。
- 事業全体の売上収益は、為替影響に加え、ライフサイエンスの米国における販売減もあり、前年比減収となります。経費抑制を進めますが、関税影響もあり、営業利益は前年比減益となります。

2026年3月期 通期見通し：コンポーネント事業



● 前回予想据え置き

● 前年比：売上収益 +49億円、営業利益 +29億円

【前回予想比】

- 上期営業利益の上振れは経費繰延によるもののため、通期では据え置き

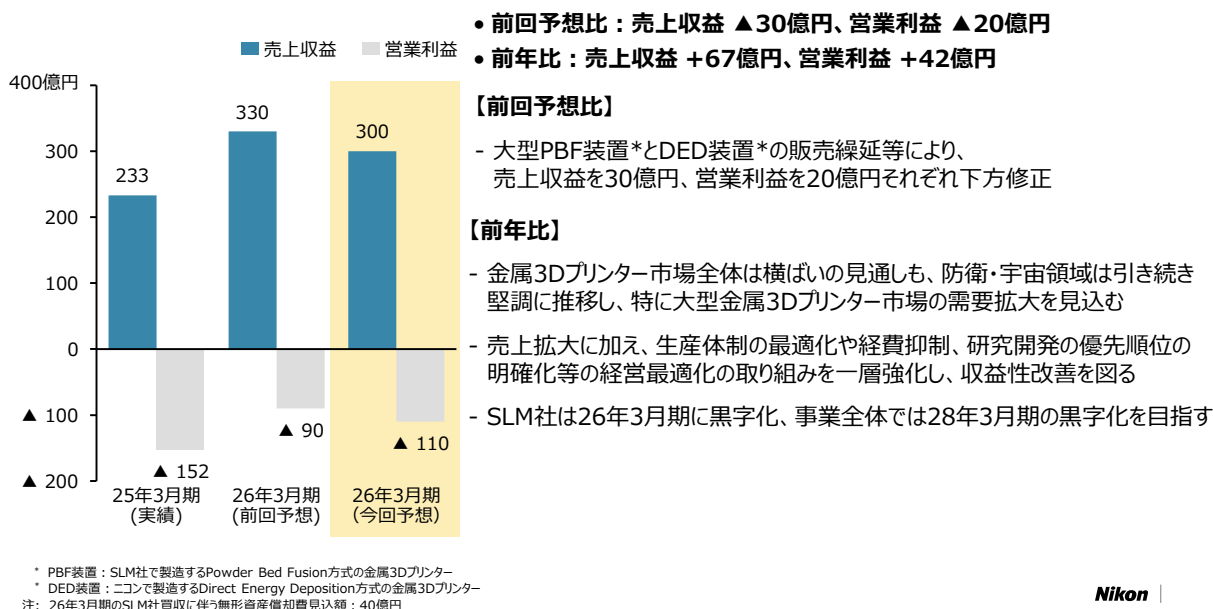
【前年比】

- 光学部品・光学コンポーネントは顧客拡大を継続的に進め、下期の市況回復による販売増加を見込む
- 測定機器分野では、画像測定システムが好調に推移
- FPDフォトマスク基板は、高精細パネル向けの需要増加を見込む
- 増収効果に加え、前年発生したインダストリアルソリューションズ事業（旧産業機器事業）での構造改革一時費用（18億円）の剥落と構造改革による収益性向上により、増益を見込む

Nikon |

- スライド21、コンポーネント事業です。
- 売上収益・営業利益とも8月予想からは不変です。
- 営業利益は上期実績では上振れましたが、主に経費繰延によるものであり、通期では据え置きます。
- 光学部品・光学コンポーネントは顧客拡大を継続的に進め、下期の市況回復による販売増加を見込みます。
- 測定機器分野では、画像測定システムが好調に推移しています。
- FPDフォトマスク基板は、高精細パネル向けの需要増加を見込みます。
- 事業全体としては、増収効果に加え、構造改革一時費用の剥落や固定費削減効果により、増益を見込みます。

2026年3月期 通期見通し：デジタルマニュファクチャリング事業



- スライド22は、デジタルマニュファクチャリング事業です。
- 大型PBF装置とDED装置の販売繰延などにより、8月予想から売上収益を30億円、営業利益を20億円それぞれ引き下げます。
- 金属3Dプリンター市場全体は横ばいの見通しですが、防衛・宇宙領域は引き続き堅調に推移しており、特に大型金属3Dプリンターの需要は拡大が見込めます。
- 下期は、売上を大きく拡大するとともに、生産体制の最適化や経費抑制、研究開発の優先順位の明確化などの経営最適化の取り組みを一層強化し、収益性改善を図ります。
- SLM社は26年3月期、事業全体では28年3月期の黒字化を目指す方針に変更ありません。

クロージング

ご説明は以上ですが、

- この上期を総括しますと、デジタルマニュファクチャリング事業での販売繰延による下振れを、その他の事業でカバーし、営業利益は8月予想を上回りました。
- 一方、通期見通しは、精機事業とデジタルマニュファクチャリング事業の回復の遅れから、売上収益を8月予想から200億円引き下げ6,800億円の、営業利益を70億円引下げ140億円としました。
- この下期は、顧客の需要減退や投資計画の先送りなど 懸念すべきリスクがそれぞれの事業にあり、引き続き慎重な事業運営を図っていく所存です。
- 引き続き、株主・投資家の皆さまのご理解・ご支援をよろしくお願い申し上げます。
- ご清聴ありがとうございました。

参考資料

ニコンの事業セグメントと主な製品

事業セグメント	主な事業、製品	製品例					
映像事業	レンズ交換式デジタルカメラ 交換レンズ デジタルシネマカメラ	 デジタルシネマカメラ「ZR」	 ミラーレスカメラ「Zf シルバー」	 「NIKKOR Z 24-70mm f/2.8 S II」	 「V-RAPTOR [XE] Z Mount」		
精機事業	FPD露光装置 半導体露光装置 アライメントステーション 計測・検査装置	 FPD露光装置 「FX-88SL」	 ArF液浸スキャナー 「NSR-S636E」	 アライメントステーション 「Litho Booster」	 自動マクロ検査装置 「AMI-5700」		
ヘルスケア事業	生物顕微鏡 （ライフサイエンス） 網膜画像診断機器 （アイケア） 細胞受託生産	 共焦点レーザー顕微鏡システム 「AX/AX R」	 SS-OCT付き 超広角走査型レーザー検眼鏡 「Silverstone」		細胞受託生産		
コンポーネント事業	EUUV関連コンポーネント 光学部品、光学コンポーネント エンコーダ、測定・検査システム FPDフォトマスク基板	 光学コンポーネント	 多回転パツタリレス アブソリュートエンコーダ 「MAR-M700MFA」	 画像測定システム 「NEXIV VMF-K シリーズ」	 工業用顕微鏡 「ECLIPSE LV100ND LED」	 大型検査用CT装置 「VOXLS 40 C 450」	 FPDフォトマスク基板
デジタル マニュファクチャリング事業	金属3Dプリンター 光加工機 3Dスキャナー 材料加工受託	 金属3Dプリンター「NXG XII 600E」	 光加工機「Lasermeister LM300A」	 3Dスキャナー「Lasermeister SB100」	 材料加工受託		

Nikon |

2025年3月期：セグメント別一時費用一覧

単位：億円	25年3月期					内容
	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	
映像事業	▲5	-	-	▲14	▲19	Q1：RED社買収関連費用▲5 Q4：MRMC社*固定資産減損損失▲8、 特許関連費用▲6
精機事業	-	-	-	▲141	▲141	固定資産減損損失▲78、棚卸資産評価損▲50、 構造改革（サービス拠点最適化）▲12
ヘルスケア事業	▲5	▲4	▲4	▲7	▲20	アイケア調査費用など
コンポーネント事業	-	-	▲8	▲10	▲18	構造改革（旧産業機器事業の組織最適化）▲18
デジタル マニュファクチャリング事業	-	-	-	-	-	
その他 （含、全社費用等）	-	▲51	▲13	▲7	▲71	Q2：本社移転関連費用 Q3・Q4：構造改革（拠点再編）▲18など
連結	▲10	▲55	▲26	▲181	▲272	

一時費用の内、構造改革関連費用は合計49億円

* Mark Roberts Motion Control社：2016年に買収。主な事業内容は、映像機器のロボット制御ソリューションに関する装置の開発、製造、販売及びレンタル

Nikon

2026年3月期：セグメント別一時損益一覧

単位：億円	26年3月期		
	Q1	Q2	内容
映像事業	-	-	
精機事業	-	+21	事業譲渡益+29及び 構造改革（サービス拠点最適化）▲8
ヘルスケア事業	▲5	▲4	アイケア調査費用など
コンポーネント事業	-	-	
デジタル マニュファクチャリング事業	-	-	
その他 （含、全社費用等）	▲6	▲5	拠点再編に伴う費用
連結	▲11	+11	

2026年3月期 通期見通し：財務ハイライト

単位：億円	23年3月期	24年3月期	25年3月期			26年3月期 見通し		
	通期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上収益	6,281	7,172	3,327	3,825	7,152	3,129	3,671	6,800
営業利益	549	397	58	▲34	24	▲48	188	140
営業利益率	8.7%	5.5%	1.7%	▲0.9%	0.3%	▲1.5%	5.1%	2.1%
税引前利益	570	426	44	1	45	▲52	212	160
税引前利益率	9.1%	5.9%	1.3%	0.0%	0.6%	▲1.7%	5.8%	2.4%
当期利益*	449	325	29	32	61	53	147	200
当期利益率	7.2%	4.5%	0.9%	0.8%	0.9%	1.7%	4.0%	2.9%
FCF	▲1,121	▲106	▲217			-		
ROE	7.4%	5.0%	0.9%			3.1%		
EPS	125.46円	94.03円	17.86円			60.78円		
年間配当	45円	50円	50円			50円		
為替：USD円	135円	145円	153円	152円	153円	146円	145円	146円
ユーロ	141円	157円	166円	162円	164円	168円	170円	169円

* 親会社の所有者に帰属する当期利益
注：予想EPSの前提となる発行済株式数：約329.0百万株

2026年3月期 通期見通し：財務ハイライト

単位：億円	25年3月期			26年3月期 見通し			前年比		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上収益	3,327	3,825	7,152	3,129	3,671	6,800	▲198	▲154	▲352
営業利益	58	▲34	24	▲48	188	140	▲106	+222	+116
営業利益率	1.7%	▲0.9%	0.3%	▲1.5%	5.1%	2.1%	▲3.2P	+6.0P	+1.8P
税引前利益	44	1	45	▲52	212	160	▲96	+211	+115
税引前利益率	1.3%	0.0%	0.6%	▲1.7%	5.8%	2.4%	▲3.0P	+5.8P	+1.8P
当期利益*	29	32	61	53	147	200	+24	+115	+139
当期利益率	0.9%	0.8%	0.9%	1.7%	4.0%	2.9%	+0.8P	+3.2P	+2.0P
ROE	0.9%			3.1%			+2.2P		
EPS	17.86円			60.78円			+42.92円		
年間配当	50円			50円			-		
為替：USドル	153円	152円	153円	146円	145円	146円	▲7円	▲7円	▲7円
ユーロ	166円	162円	164円	168円	170円	169円	+2円	+8円	+5円

* 親会社の所有者に帰属する当期利益
注： 予想EPSの前提となる発行済株式数：約329.0百万株

2026年3月期 通期見通し：セグメント別見通し

単位：億円		25年3月期			26年3月期 見通し			前年比		
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
映像事業	売上収益	1,517	1,436	2,953	1,450	1,450	2,900	▲67	+14	▲53
	営業利益	288	125	413	151	169	320	▲137	+44	▲93
精機事業	売上収益	815	1,204	2,019	698	932	1,630	▲117	▲272	▲389
	営業利益	9	6	15	30	20	50	+21	+14	+35
ヘルスケア事業	売上収益	551	613	1,164	512	628	1,140	▲39	+15	▲24
	営業利益	13	54	67	3	47	50	▲10	▲7	▲17
コンポーネント事業	売上収益	304	437	741	351	439	790	+47	+2	+49
	営業利益	14	57	71	52	48	100	+38	▲9	+29
デジタル マニファクチャリング事業	売上収益	117	116	233	98	202	300	▲19	+86	+67
	営業利益	▲64	▲88	▲152	▲89	▲21	▲110	▲25	+67	+42
その他	売上収益	20	20	40	18	22	40	▲2	+2	±0
	営業利益	6	23	29	▲5	20	15	▲11	▲3	▲14
全社費用等	営業利益	▲209	▲211	▲420	▲190	▲95	▲285	+19	+116	+135
	内、成長投資関連費用	▲99	▲105	▲204	▲84	▲96	▲180	+15	+9	+24
	内、本社管理部門費用	▲120	▲115	▲235	▲89	▲21	▲110	+31	+94	+125
	内、セグメント間消去	10	9	19	▲17	22	5	▲27	+13	▲14
連結	売上収益	3,327	3,825	7,152	3,129	3,671	6,800	▲198	▲154	▲352
	営業利益	58	▲34	24	▲48	188	140	▲106	+222	+116

2026年3月期 通期見通し：財務ハイライト（前回予想との差異）

単位：億円	前回予想（8/7）			今回予想（11/6）			前回予想比		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上収益	3,130	3,870	7,000	3,129	3,671	6,800	▲1	▲199	▲200
営業利益	▲80	290	210	▲48	188	140	+32	▲102	▲70
営業利益率	▲2.6%	7.5%	3.0%	▲1.5%	5.1%	2.1%	+1.1P	▲2.4P	▲0.9P
税引前利益	▲60	310	250	▲52	212	160	+8	▲98	▲90
税引前利益率	▲1.9%	8.0%	3.6%	▲1.7%	5.8%	2.4%	+0.2P	▲2.2P	▲1.2P
当期利益*	50	220	270	53	147	200	+3	▲73	▲70
当期利益率	1.6%	5.7%	3.9%	1.7%	4.0%	2.9%	+0.1P	▲1.7P	▲1.0P
ROE	4.2%			3.1%			▲1.1P		
EPS	82.08円			60.78円			▲21.30円		
年間配当	50円			50円			-		
為替：USD/円	145円	145円	145円	146円	145円	146円	+1円	±0円	+1円
ユーロ/円	159円	155円	157円	168円	170円	169円	+9円	+15円	+12円

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

注：予想EPSの前提となる発行済株式数：前回予想約328.9百万株、今回予想約329.0百万株

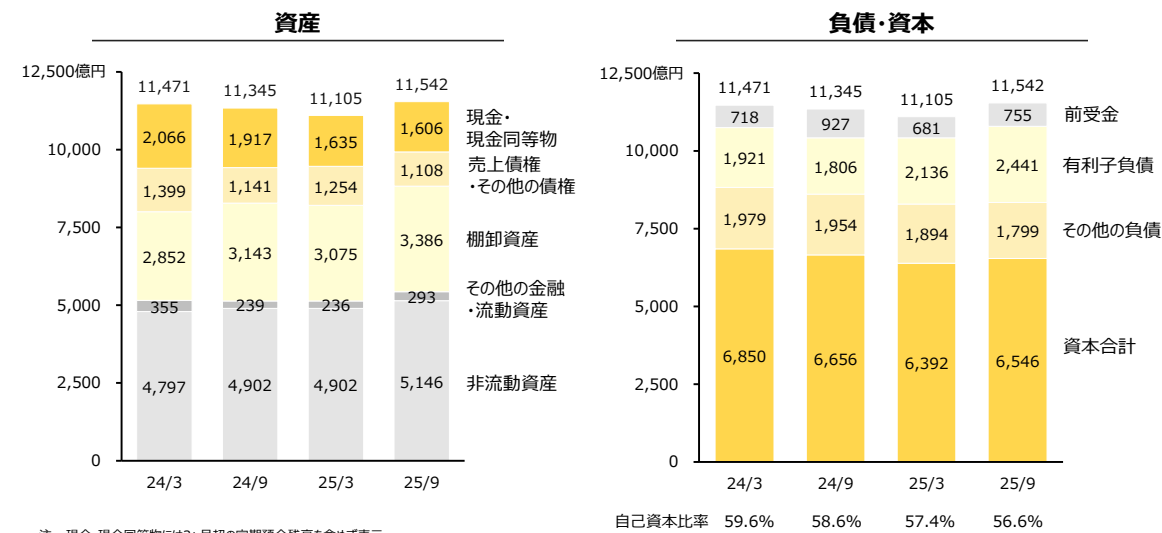
2026年3月期 通期見通し：セグメント別見通し（前回予想との差異）

単位：億円		前回予想（8/7）			今回予想（11/6）			前回予想比		
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
映像事業	売上収益	1,400	1,470	2,870	1,450	1,450	2,900	+50	▲20	+30
	営業利益	140	180	320	151	169	320	+11	▲11	-
精機事業	売上収益	720	1,130	1,850	698	932	1,630	▲22	▲198	▲220
	営業利益	5	115	120	30	20	50	+25	▲95	▲70
ヘルスケア事業	売上収益	500	620	1,120	512	628	1,140	+12	+8	+20
	営業利益	▲10	50	40	3	47	50	+13	▲3	+10
コンポーネント事業	売上収益	350	440	790	351	439	790	+1	▲1	-
	営業利益	35	65	100	52	48	100	+17	▲17	-
デジタル マニファクチャリング事業	売上収益	140	190	330	98	202	300	▲42	+12	▲30
	営業利益	▲55	▲35	▲90	▲89	▲21	▲110	▲34	+14	▲20
その他	売上収益	20	20	40	18	22	40	▲2	+2	-
	営業利益	5	20	25	▲5	20	15	▲10	±0	▲10
全社費用等	営業利益	▲200	▲105	▲305	▲190	▲95	▲285	+10	+10	+20
	内、成長投資関連費用	▲90	▲90	▲180	▲84	▲96	▲180	+6	▲6	-
	内、本社管理部門費用	▲90	▲20	▲110	▲89	▲21	▲110	+1	▲1	-
	内、セグメント間消去	▲20	5	▲15	▲17	22	5	+3	+17	+20
連結	売上収益	3,130	3,870	7,000	3,129	3,671	6,800	▲1	▲199	▲200
	営業利益	▲80	290	210	▲48	188	140	+32	▲102	▲70

2026年3月期 Q2：セグメント別四半期実績

単位：億円		25年3月期				26年3月期	
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
映像事業	売上収益	837	680	839	597	800	650
	営業利益	178	110	150	▲25	110	41
精機事業	売上収益	331	484	434	770	338	360
	営業利益	▲21	30	▲15	21	18	12
ヘルスケア事業	売上収益	262	289	264	349	231	281
	営業利益	▲6	19	8	46	▲18	21
コンポーネント事業	売上収益	138	166	186	251	151	200
	営業利益	▲1	15	22	35	18	34
デジタル マニファクチャリング事業	売上収益	59	58	65	51	50	48
	営業利益	▲35	▲29	▲38	▲50	▲41	▲48
その他	売上収益	10	10	11	9	8	10
	営業利益	2	4	1	22	▲2	▲3
全社損益等	営業利益	▲87	▲122	▲105	▲106	▲96	▲94
	内、成長投資関連費用	▲49	▲50	▲51	▲54	▲41	▲43
	内、本社管理部門費用	▲37	▲83	▲60	▲55	▲40	▲49
	内、セグメント間消去	▲0	10	7	2	▲14	▲3
連結	売上収益	1,638	1,689	1,799	2,026	1,581	1,548
	営業利益	29	29	23	▲57	▲11	▲37

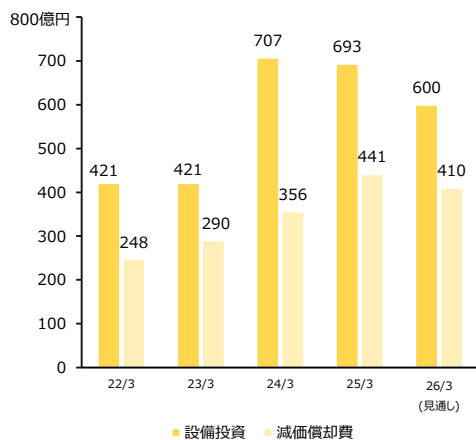
2026年3月期 上期：財政状態計算書



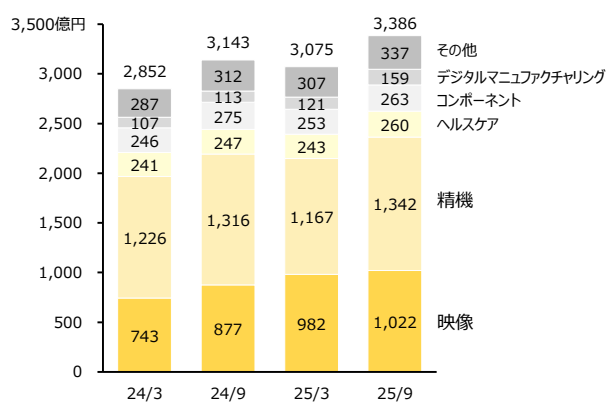
注：現金・現金同等物には3ヶ月超の定期預金残高を含めず表示
注：自己資本比率＝親会社所有者帰属持分比率

設備投資・減価償却費・棚卸資産

設備投資・減価償却費



棚卸資産

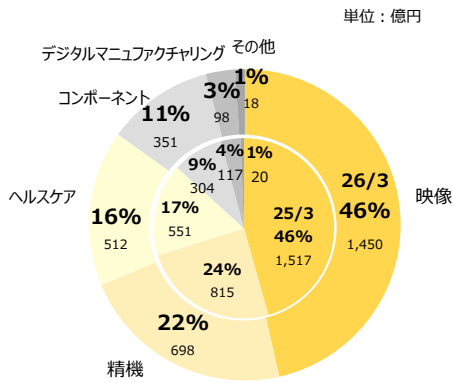


注: 「設備投資」 使用权資産を含む

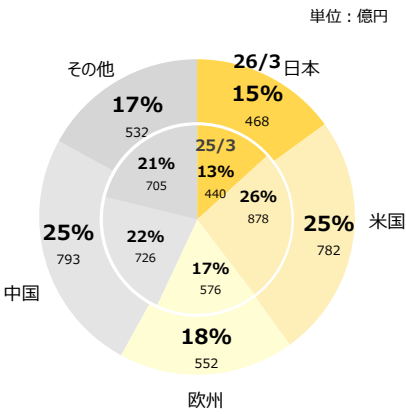
注: 「減価償却費」 使用权資産、企業結合により取得した有形固定資産の減価償却費や無形資産の償却費を含む

2026年3月期 上期：売上収益内訳

セグメント別内訳

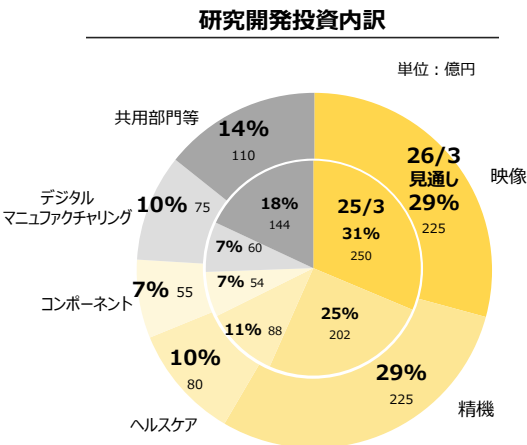
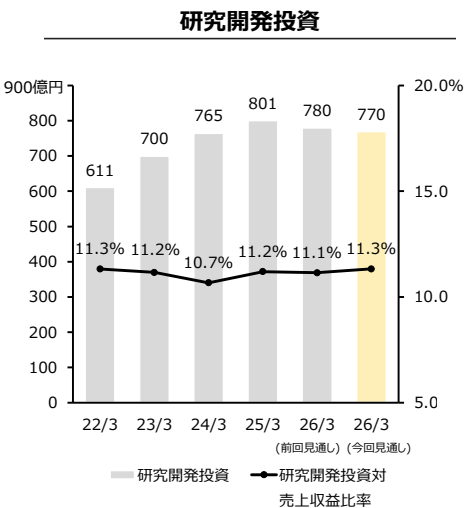


地域別内訳



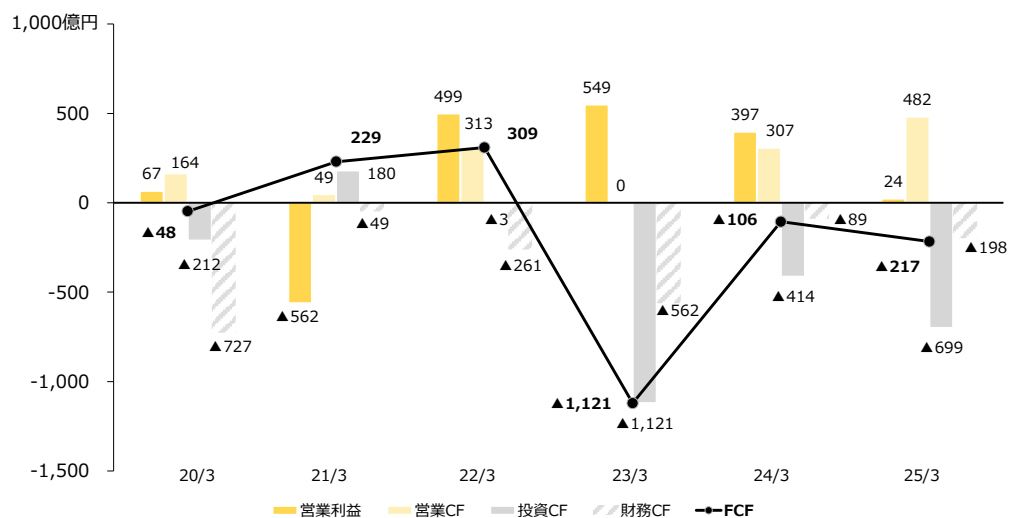
注：外円は「26年3月期上期売上収益3,129億円」の内訳、内円は「25年3月期上期売上収益3,327億円」の内訳を表示

2026年3月期 通期見通し：研究開発投資



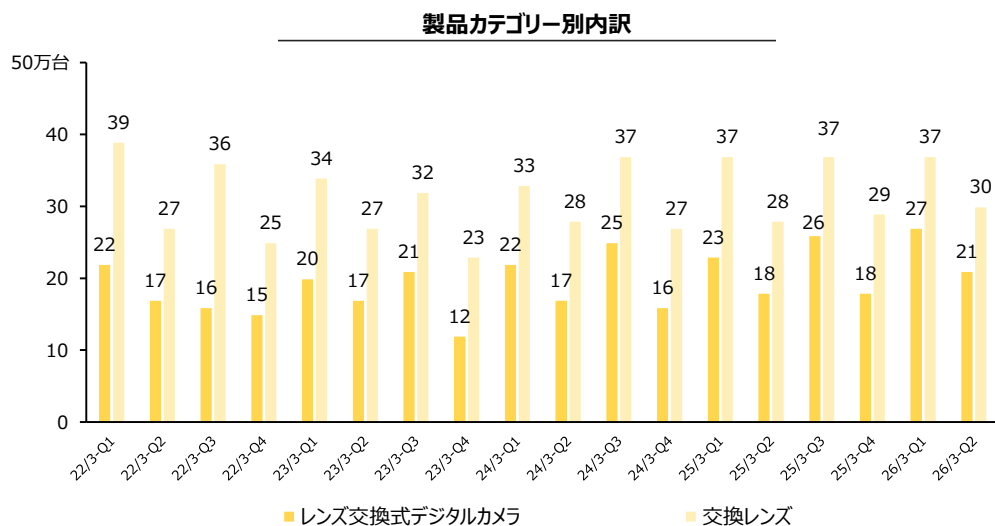
注：「研究開発投資」 資産化された開発投資を含む

キャッシュフロー推移

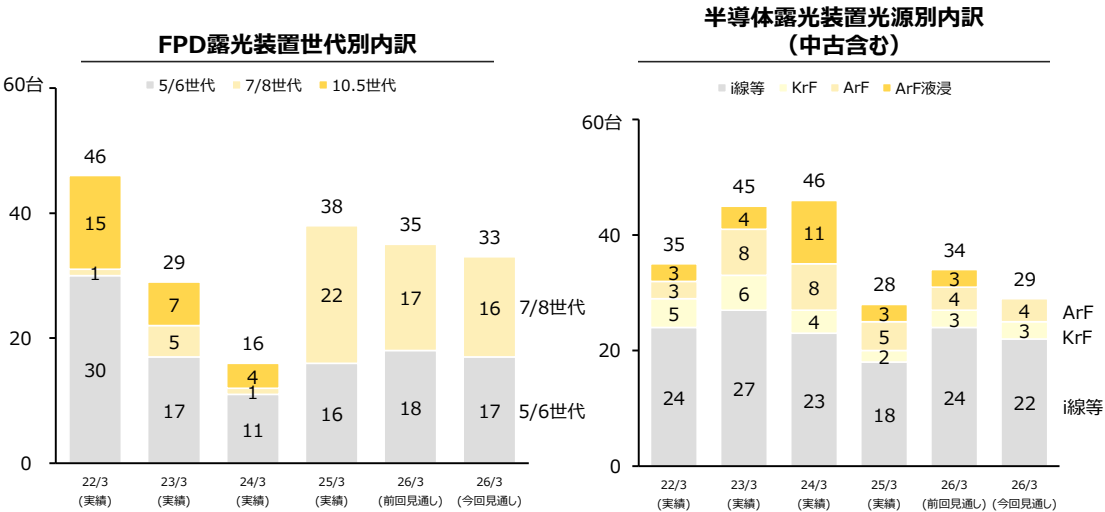


注: FCF + 財務CF + 現金・現金同等物に係る換算差額 = 現金・現預金同等物期末残高増減

映像事業 販売台数

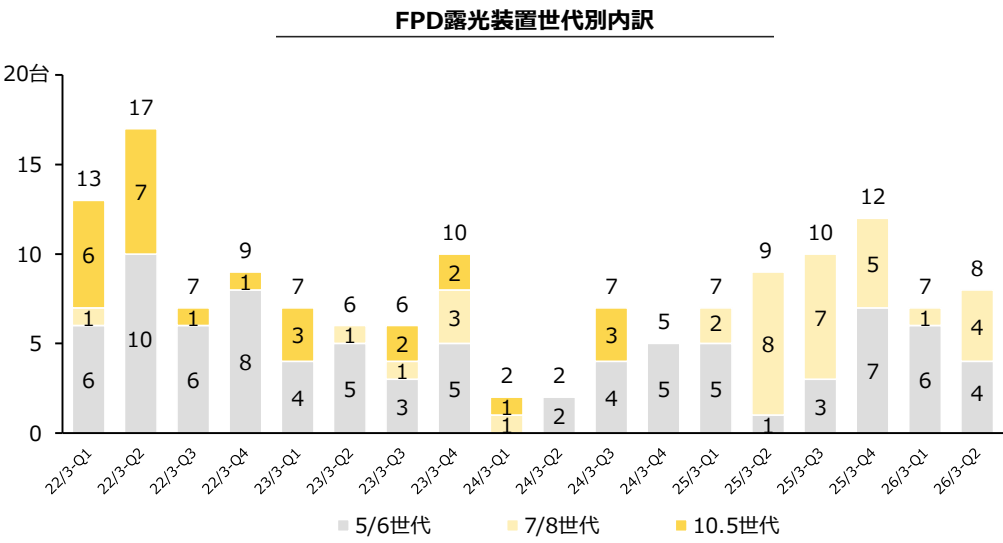


2026年3月期 通期見通し：精機事業 販売台数



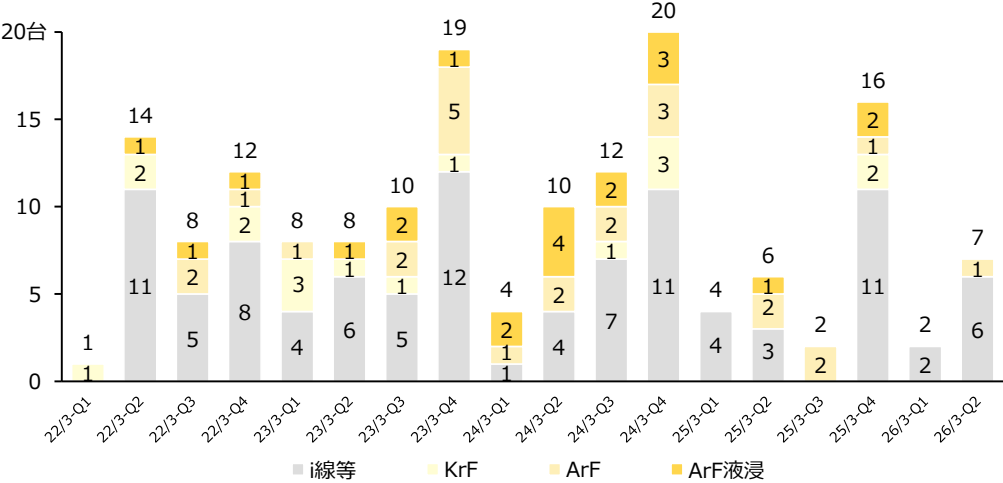
注：半導体露光装置台数の「i線等」には、i線を含む非微細化領域の露光装置（ミニステッパー）を含む
注：半導体露光装置の新品の台数は、22年3月期は17台、23年3月期は27台、24年3月期は31台、25年3月期は18台、26年3月期は23台（予定）

精機事業 販売台数



精機事業 販売台数

半導体露光装置光源別内訳（中古含む）



注：半導体露光装置台数の「i線等」には、i線を含む非微細化領域の露光装置（ミニステッパー）を含む

2026年3月期 通期見通し：為替の影響

	為替レート	1円の変動による影響額	
	26年3月期 下期前提	売上収益 下期	営業利益 下期
USドル	145円	約13億円	約3億円
ユーロ	170円	約5億円	約2億円

注：上記は新興国通貨がUSドル、ユーロに連動することを想定

将来予想に関する記述

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的风险及び不確実性が含まれます。
このため、今後様々な要因の変化によって、実際の業績は記述されている内容と大きく異なる場合があることをご承知おきください

